

労災だより

2018 - Nov

No. 10

横浜労災病院の神経内科診療体制について

神経内科部長 今福 一郎

当院の神経内科では、**脳卒中やてんかん、中枢神経感染症**などの**神経救急疾患**を幅広く扱っており、救急外来及び地域医療機関からの紹介患者さんを多数診療しております。



脳卒中については、2017年の入院患者総数517名のうち、計282名（脳梗塞191名、一過性脳虚血発作45名、脳出血46名）と半分以上を占めています。**脳血管内治療（機械的血栓回収療法）**や**t-PA 静注療法（血栓溶解療法）**などの脳梗塞超急性期治療についても、**脳神経血管内治療科及び脳神経外科医師との協力のもと24時間体制**で対応し、従来では重篤な後遺症を残した可能性がある患者さんでも、良好な転帰を得る例が増えてきております。



特に**脳血管内治療**については、**脳卒中治療ガイドラインの追補2017**において、「発症後6時間以内であっても、治療開始および再開通までの時間が早いほど良好な転帰が期待できる。このため、患者が来院した後、少しでも早く血管内治療（機械的血栓回収療法）を行うことが勧められる（グレードA）」とあります。地域医療機関の先生方におかれましては**可及的早期に患者さんを当院に受診させていただければ迅速に対応いたします。**

また、急性期治療を終えた患者さんにおいては、再発予防のため、高血圧・糖尿病・脂質異常症・心房細動などの危険因子を適切に管理すること（best medical treatment）が重要です。**脳卒中急性期治療後の患者さんは、積極的に地域医療機関の先生方への紹介を行っております**ので、危険因子には十分ご留意のうえ管理のほどよろしくお願い申し上げます。





外来では、**認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症**などの**変性疾患**や、**重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多巣性運動ニューロパチー**等の**自己免疫性神経疾患、筋ジストロフィー**の患者さんも多数診療しております。

特に**パーキンソン病**においては、早期の治療介入が最新のガイドラインでもより重視されるようになってきております。**動作が遅くなってきた・安静時のふるえが出てきた**など、パーキンソン病が疑われる患者さんがおりましたら是非ご紹介ください。

(文責：神経内科医師 佐々木拓也/今福一郎)

治療と職業生活に関する両立支援相談窓口について

当院では、平成30年4月より、がん等の疾患に罹患した勤労者が、治療の過程や退院時において、**円滑な就労の継続や職場への復帰が図られる**ことを念頭においた医療の提供や支援が受けられるよう、「**両立支援相談窓口**」を開設しております。

本窓口では、**当院の患者に限らず、患者やその家族、さらには患者の所属する事業場の担当者**を対象として、専門の相談員（**両立支援コーディネーター**）が**神奈川産業保健総合支援センター**と共同して両立支援に関する様々な不安や要望について、可能な限り対応しております。

ぜひ、ご活用下さい。

治療と職業生活に関する 両立支援相談窓口のご案内

がん、糖尿病、脳卒中等の治療を受けているけれど、治療を受けながら仕事ができるのだろうか.....?

会社の上司や同僚に病気のことをどのように話したら良いのだろうか.....?

**悩みをお持ちの患者さんのために
相談窓口(無料)を開設しました**

対象者：がん、糖尿病、脳卒中等で治療中の方(当院以外も含む)やそのご家族、事業場の担当者

場所：患者サポートセンター（管理棟1階）

時間：9時30分～17時00分（月曜日～金曜日）

対応者：両立支援促進員（両立支援コーディネーター）

連絡先：045-474-8111（病院代表）

～企業の人事・労務管理担当の方へ～
当院は、神奈川産業保健総合支援センターと連携して相談窓口を開設しております。
企業内の労務管理等の体制づくりの整備については、下記センターにお問い合わせください。
神奈川産業保健総合支援センター
TEL 045-410-1160

当院へ患者さんをご紹介される場合には

登録医予約専用電話 ☎ 045-474-8362（直通）

（受付時間 8：15 ～ **19：00**）へご連絡下さい。

横浜労災病院

横浜市港北区小机町 3211 TEL 045-474-8111